

科目名	言語教育工学特講	担当者	ホサカ 保坂 トシコ 敏子	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現在、言語教育では、印刷教材だけでなく、e-Learning 教材や Web コンテンツ、ICT (Information and Communication Technology) の各種技術など、多様な教育メディアが利用されている。また、ICT により教室を超えた対話や学習者の自律学習が可能になり、対面授業と e-Learning を組み合わせるブレンデッドラーニングも散見されるようになった。また、2020 年度にはコロナ禍のなか、オンライン授業が急速に普及した。本講義では、言語教育における ICT の効果的な教育利用のために、インストラクショナルデザイン (Instructional Design:ID) を学ぶ。さらに、オープンエデュケーション教材 (Open Educational Resources: OER) を使った e-Learning を実体験し、言語教育においてより効果的に e-Learning および ICT を活用できる能力を身に付ける。</p> <p>以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力を中心に、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、協働力、省察力、世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 ICT を利用した言語教育やその研究に必要な専門性 (知識・技能・態度) を修得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ e-Learning の基盤となる学習理論と ID のモデルを説明できる。</li> <li>・ それを基に、言語教育の実践例を分析・評価できる。</li> <li>・ OER を使った学習を体験し、自らの学びについて、ならびに、OER を使った学習の利点と問題点について論述できる。</li> <li>・ 自分の教育現場に配慮して、e-Learning や ICT 利用した授業デザインを立案できる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>・ manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う (課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)</li> <li>・ OER を視聴し、レポートを作成する。</li> <li>・ 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>(自習) 教材の熟読、OER による自律的学習 (自主研究) 参考文献の検索と熟読 (レポート作成) レポートの作成・レポート推敲 (ディベート) 掲示板上のディスカッション、ピア・レスポンス (受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動)</p> <p>【学修時間】</p> <p>レポート課題 1 本につき、完成までに以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。</p> <p>1) 教材の学修：20 時間    2) レポート執筆：10 時間    3) レポート推敲と最終の完成 (教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)：15 時間</p>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt; ・レポート課題 1 締切：6 月末 (初稿) 前期締切日 (最終稿) ・レポート課題 2 締切：8 月末 (初稿) 前期締切日 (最終稿)</p> <p>&lt;後期&gt; ・レポート課題 1 締切：10 月末 (初稿) 後期締切日 (最終稿) ・レポート課題 2 締切：12 月末 (初稿) 後期締切日 (最終稿)</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	論旨明確さ、独創性、構成、文章表現の妥当性、引用の適切性等 ★前期レポート課題 1、2 と後期レポート課題 1 は最終稿で評価する。 ★後期レポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。提出後の指導・ピア・レスポンスは通常通り行う。
	観察記録	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進める。</li> <li>・ 初稿の提出は締め切りを遵守すること。</li> <li>・ ピア・レスポンスは、それぞれのレポートへの個別指導が終わり次第始める。</li> <li>・ レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数 (参考文献、注を除いたもの) を遵守すること。無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 鄭仁星・久保田賢一・鈴木克明            教材名： 『最適モデルによるインストラクショナル・デザイン—ブレンド型 e ラーニングの効果的な手法』(東京電機大学出版局, 2008 年) ISBN-10: 4501543906 1,900 円+税</p> <p>本書は、インストラクショナル・デザイン (Instructional Design: ID) とは何か、ID にはどのようなモデルがあるか、ブレンド型 e-Learning の環境をどう設計するかについて解説している。対面授業と e-Learning を組み合わせたブレンド型 e-Learning を設計する際の背景となる学習理論から設計の手順まで学ぶことができる。</p>
参考図書	<p>日本教育工学会監修 坂本昂・岡本敏雄・永野和男編著 『教育工学とはどんな学問か』(ミネルヴァ書店, 2012 年) ISBN:978-4623063611 2,600 円+税            R.A. リーサー, J.V. デンプシー編 鈴木克明・合田美子監訳『インストラクショナルデザインとテクノロジー: 教える技術の動向と課題』(北大路書房, 2013) ISBN-10: 4762828181 4,800 円+税</p>
履修上のポイント	<p>教育工学は、コンピュータや ICT などを使った「テクノロジーによる教育」だけでなく、教育過程そのものをテクノロジーとして捉え直す「テクノロジーとしての教育」を研究する分野である。後者では、e-Learning や ICT を利用する教育を学習環境として授業に効果的に位置付けることが重要だとされる。ID を学び、国語や英語、日本語等の言語の授業における効果的な e-Learning や ICT の活用について検討すること。</p> <p>ピア・レスポンスによる協働活動を通して、自分の視点と他者の視点とを交流させ、レポートの考察を深めていただきたい。</p>
レポート課題 1	<p>1 章～6 章や参考図書を読んで、ID の定義と背景となる学習観・学習理論についてまとめ、教材で紹介されている OPTIMAL モデルの概要を解説する。(3,000 字～4,000 字)  <b>留意点</b>：学習理論による ID モデルの違い、OPTIMAL モデルの特徴を簡潔に解説すること。</p>
レポート課題 2	<p>言語教育や異文化間教育分野の e-Learning や ICT 利用の実践例(論文・報告書)を検索し、事例を 2 つ取り上げて、基本教材の 7 章、8 章を参考に OPTIMAL モデルを枠組みに分析を行い、その結果について論じる。(3,000 字～4,000 字)  <b>留意点</b>：マイクロデザインとマイクロデザインに分けて整理すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 栗田佳代子, 日本教育研究イノベーションセンター 編著            教材名： 『インタラクティブ・ティーチング—アクティブ・ラーニングを促す授業づくり—』(河合出版, 2017 年) ISBN:978-4-7772-1794-6 2,500 円+税            講義動画： <a href="http://www.utokyofd.com/mooc/contents">http://www.utokyofd.com/mooc/contents</a> (8 週間プログラム)            (東京大学ファカルティ・ディベロップメント HP 内)</p> <p>講義動画は JMOOC 講座として配信されたもので、現在、OER として東京大学の HP で公開されている。印刷教材は、その講義動画を学ぶための教材である。大学教員準備プログラムから生まれた講座であるが、アクティブ・ラーニングの手法やルーブリックによる評価など、インタラクティブ・ティーチングの理論や方法論が体系的に学べ、分野を問わず教師の能力開発に役に立つ。</p>
参考図書	<p>吉田晴世・野澤和典 編著『最新 ICT を活用した私の外国語授業』(丸善プラネット, 2014 年) ISBN: 978-4863451971 2,700 円+税</p>
履修上のポイント	<p>印刷教材の課題に取り組みながら、8 週間のプログラムをそれぞれ自律的学習を進める。OER を使った自律的な学びの実体験について、学んだ内容や学習方法をクリティカルに検討する。参考図書や論文をできるだけ参照して、自分の現場を念頭に置いた授業デザインを考案する。</p> <p>ピア・レスポンスによる協働活動を通して、自分の視点と他者の視点とを交流させ、レポートの考察を深めていただきたい。</p>
レポート課題 1	<p>8 週間の講義動画による学習経験に基づき、学習内容で重要だと思ったこと、ならびに、OER を使った学習方法の利点と問題点について論じる。(3,000 字～4,000 字)  <b>留意点</b>：重要だと思ったことについては、ひとつの章や項目に焦点を絞って論じること。</p>
レポート課題 2	<p>自分の教育現場を対象に、e-Learning, ICT を利用したインタラクティブな授業なデザインを立案してシラバスを作成し、その特徴や期待される効果について論じる。(3,000 字～5,000 字)  <b>留意点</b>：目的や目標の記述、評価の方法などシラバスの記述方法は、基本教材 2 の第 5 章に則ること。1 コマの指導案ではなく、ひとつのコースを計画すること。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の 1 章～4 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 5 章～7 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 8 章～10 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の 7 章～8 章
第 9 回	課題論文の検索と分析
第 10 回	課題論文の検索と分析
第 11 回	課題論文の検索と分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の 1 章～2 章の学修と講義動画の視聴
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の 3 章～4 章の学修と講義動画の視聴
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の 5 章～6 章の学修と講義動画の視聴
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の 7 章～8 章の学修と講義動画の視聴
第 5 回	教材の学修：基本教材 2 の 9 章～10 章の学修と講義動画の視聴
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	授業デザインとシラバスの検討
第 11 回	授業デザインとシラバスの検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成